



平成30年度第2回企画展

収蔵品で語る宮代の民俗3

てぬぐいのある風景

開催期間：平成30年7月14日(土)～10月21日(日)



宮代町郷土資料館

〒345-0817 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289
TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

ごあいさつ

長い歴史の中で、使われる道具や身につける衣類などは、人々の生活様式の変化に伴って変わってきました。そのような道具の中で「てぬぐい」は、素材や使われ方が大きく変化したものの一つといえます。

奈良・平安時代あたりの初期の「てぬぐい」は、麻を素材としていました。神事の際の装身具として使われていたので、まだ一般的に使用されるものではありませんでした。木綿を素材とし、人々が日常具の一つとして使うようになったのは江戸時代のことで、各地で木綿栽培が盛んになったことが大きく影響したようです。

この頃の「てぬぐい」は、手や顔を洗ったり入浴したりしたときに「拭く」という本来の使われ方だけでなく、「被る」「包む」など、様々な用途で用いられました。その様子は、昔の浮世絵や錦絵などにも見ることができます。

また近年では、有効な広告手段として、商店や企業などがオリジナルデザインで作成したものを、顧客などに配布したりしていました。

今回の企画展は「収蔵品で語る宮代の民俗3 てぬぐいのある風景」と題し、郷土資料館に収蔵している民俗資料等の中から、「てぬぐい」に関する資料を紹介します。

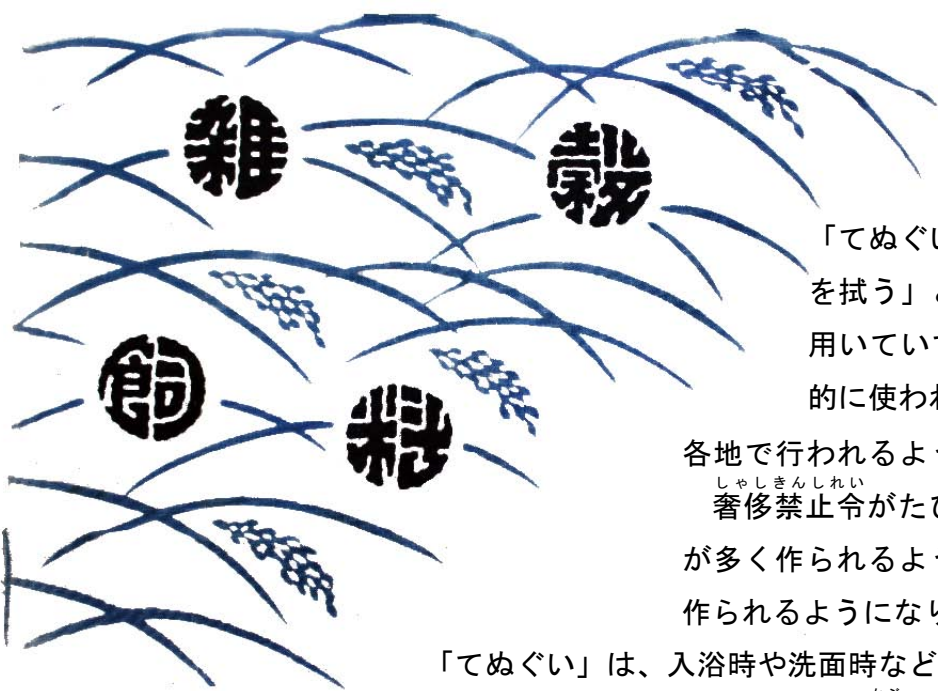
収蔵している「てぬぐい」は、町内・町外の商店が作成したノベルティグッズとしてのものが中心となりますが、生活必需品であり消耗品でもあったがゆえに残っているものが少なく、収集していくことが難しい資料の一つであるといえます。また、これらの「てぬぐい」のほかに、浮世絵・錦絵や昭和40年代の写真などもあわせてご覧いただくことにより、当時の人々の生活風景の一端をご覧いただく機会となれば幸甚です。

結びに、貴重な資料をご提供くださり、また、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、ご来館いただきました皆様とともに、今後とも郷土資料館の活動にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

平成30年7月
宮代町郷土資料館

～ 凡例 ～

1. 本書は、平成30年7月14日（土）から10月21日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館平成30年度第2回企画展「収蔵品で語る宮代の民俗3 てぬぐいのある風景」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。
7月17・23・30日、8月6・13・20・27日、9月7～28日（空調機器更新工事および収蔵庫くん蒸）
10月1・9・15日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆執筆、写真撮影、デザイン、編集は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。
4. 図録の校正は、展示構成とは異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. てぬぐいの名称については、資料にある表記から採用しました。
6. 資料提供・協力者一覧（五十音順・敬称略）
青木秀雄・青木千代子・岩崎克己・折原静佑・園部将伸・武井勲・吉田正子・渡辺恵司



「てぬぐい」とは

「てぬぐい」とは木綿製の布で、文字通り「手を拭う」という意味です。古い時代には麻を用いていて、手巾しゅきんと呼ばれていました。一般的に使われるようになったのは、木綿栽培が

各地で行われるようになった江戸時代からです。

奢侈禁止令しゃしきんしれいがたびたび出されるなどして木綿の着物が多く作られるようになると、その端切れなどからも作られるようになりました。

「てぬぐい」は、入浴時や洗面時などに濡れた体や顔を拭うために使われる布ですが、一枚の布として頭かぶに被せて埃や陽をよけたり、首に巻いたりなどの小間物として活用したり、包んだり被せたりする道具として使用したりしました。また、職業において被り方の違いがあったりしました。さらに、祭礼の際の衣装であったり、落語や日本舞踊などの古典芸能においては見立てとしての小道具として使われるほか、歌舞伎などにおいては被り物や衣装として使われ、その演目で使われた被り方が流行るなどの影響も与えるなど、本来の「水分を拭う」という目的だけでなく、様々な使われ方をしました。

このほか、お年玉や縁起物としての贈答品として、あるいは景気づけや見舞などの祝儀・不祝儀の品として、さらには顧客ひいきすじや鼈負筋などに配る名刺や宣伝代わりなどに使うなど、その用途も広がりを見せました。郷土資料館で収蔵している「てぬぐい」は、顧客に配ったり宣伝目的のために作られたノベルティグッズとしてのものがほとんどです。そのため、そのデザインも扱っている商品をイメージするものや、商品そのものをデザインしたものが多くいます。

1. てぬぐい（宮代町百間新道 栗田商店）

昭和 40 年代



2. てぬぐい（杉戸駅前 大高精米所）

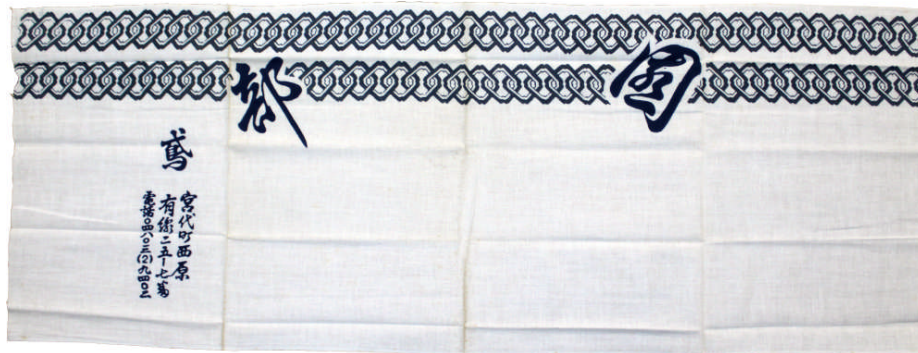
昭和 40 年代





3. てぬぐい
(宮代町山崎 杉山鉄工所)
昭和 40 年代

4. てぬぐい
(東武線杉戸駅前 岩崎建材店)
昭和 40 年代



6. てぬぐい
(宮代町西原 鶯園部)
昭和 40 年代

7. てぬぐい
(東武線杉戸駅前 武井茂商店)
昭和 40 年代



8. 細川商店出張所 武井商店
昭和 30 年代
武井氏所蔵



9. てぬぐい
(宮代町山崎 金和商店)
昭和 40 年代

11. てぬぐい
(宮代町山崎 金子農機店)
昭和 40 年代



13. てぬぐい
(南埼玉宮代 島村輪店)
昭和 40 年代

19. てぬぐい
(宮代町中須 細井瓦工場)
昭和 40 年代



20. てぬぐい
(埼玉銀行)
昭和 48 年

昭和 48 年 (1973) に制定された行章が印刷されている。県の花のサクラソウをモチーフに、永井一正氏がデザインしたもの。上部の絵柄は銀行らしくソロバンの玉となっている。

「てぬぐい」を活用した衣類

「てぬぐい」は木綿の布で作られているため、その本来の目的である「吸水性」に優れています。薄手の布でもあることから、乾きが早いことも特徴の一つと言えます。こうした特徴から、本来の目的以外に応用している事例が見られます。

一つは着物の裏地としての活用です。今回展示した資料では、野良作業に使用していた野良襦袢の肩当ての布として使用しています。このほか居敷当てとして使用されている例もあるようです。

もう一つは、下着として仕立てたものです。紹介している資料では、全部で5枚のてぬぐいを使用して仕立てています。使われている「てぬぐい」からは、それらを作成した商店・企業などの業務などがうかがえるとともに、「てぬぐい」のデザインに込められた遊び心をうまく活用して仕立てられていることもわかります。



22. 野良襦袢

昭和 40 年代
青木氏寄贈



23. 野良襦袢

昭和 40 年代
青木氏寄贈



24. 襦袢

昭和 40 年代
岩崎氏寄贈

「てぬぐい」のある風景

このコーナーでは、収蔵している浮世絵や錦絵、または、昭和40年代の写真から、実際にてぬぐいが使われている風景をご紹介します。



29. 月さよ 岩井桑三郎
(演目：しいれそがかりがねぞめ
仕入曾我雁金染)

江戸時代
折原家文書



30. 玉兎 坂東三津五郎
(演目：御名残狂言 月雪花名残文台)

江戸時代
折原家文書



31. 庄九郎女房お高 瀬川菊之丞
(演目：不明)

江戸時代
折原家文書



27. 田植えの準備風景

昭和45年6月
吉田氏所蔵



26. 田植え準備の合い間の休憩
昭和45年6月
吉田氏所蔵

展示資料リスト

	資料群名	資料 No.	年代	表題など
1			昭和 40 年代	宮代町百間新道 栗田商店
2			昭和 40 年代	杉戸駅前 大高精米所
3			昭和 40 年代	宮代町山崎 杉山鉄工所
4			昭和 40 年代	東武線杉戸駅前 総合建材業 岩崎建材店
5			昭和 40 年代	宮代町山崎 大仲（建築業 関根仲右衛門）
6			昭和 40 年代	宮代町西原 鳶 園部
7			昭和 40 年代	東武線杉戸駅前 武井茂商店
8	パネル		昭和 40 年代	細川商店出張所 武井商店
9			昭和 40 年代	宮代町山崎 金和商店
10			昭和 40 年代	宮代町百間新道 成田自転車商会
11			昭和 40 年代	宮代町山崎 金子農機店
12			昭和 40 年代	宮代町西原 新井建業
13			昭和 40 年代	南埼玉宮代 島村輪店
14			昭和 40 年代	埼玉県杉戸町 栗田商店
15			昭和 40 年代	杉戸駅前 八百忠
16			昭和 40 年代	白岡町柴山 太田屋
17			昭和 40 年代	（杉戸町）有限会社 八百仁商店
18			昭和 40 年代	（杉戸町）有限会社篠原材木店
19			昭和 40 年代	宮代町中須 細井瓦工場
20			昭和 48 年	埼玉銀行
21			平成 3 年	協和埼玉銀行（絵柄は申年デザイン）
22			昭和時代	野良襦袢
23			昭和時代	野良襦袢
24			昭和時代	襦袢
25	パネル		昭和 36 年 12 月	家族写真
26	パネル		昭和 45 年 6 月	田植え準備の合い間の休憩
27	パネル		昭和 45 年 6 月	田植えの準備風景
28				てぬぐいの被り方～宮代町史 民俗編から～
29	折原家文書	724-4	江戸時代	月さよ 岩井桑三郎
30	折原家文書	724-22	江戸時代	玉兎 坂東三津五郎 御名残狂言「雪月花ノ内 兎の餅つき」
31	折原家文書	724-23	江戸時代	瀬川菊之丞 庄九郎女房お高
32	渡辺家文書	2	明治時代	蚕養草



32. 蚕養草

明治時代
渡辺家文書